



学校だより ～三カ一心～

平 岩 小 中 学 校
校 長 室 通 信 No.6
平 成 2 8 年 5 月 2 5 日

ボランティア

この通信は、不定期ですが、
月2回ほど発行します。

熊本県や大分県で発生した地震により多大な被害が出たことは、いまだに報道等で伝えられていますが、同時に、現地で活動するボランティアのこともたびたび話題になります。

自然災害などの被害を受けた現地に自ら赴き、がれきの片付けや物資の整理、炊き出しやカウンセリング等々、自分ができすることで被災した方々を助けようとする精神は、本当に高貴で尊敬に値するものだと思います。

平岩小中学校でも、生徒会の執行部が中心となって、募金活動をしてくれました。集まったお金は日本赤十字社を通して被災地に届けてもらいました。

助け合いの精神や人の役に立ちたいという思いは、小さな頃から、しかも普段の生活の中から育んでいくことが大切です。特に、本校は毎朝の登校から地域の方々の見守りを受けていますし、放課後の学習や校外学習等々、多くの方に支援していただいています。

そのような精神を受け継いでかどうか、子どもたちの中にも自主的な活動が広がりつつあります。

6年生やテニス部の子どもを中心とした校門でのあいさつ運動、5・6年生を中心とした靴箱等の清掃や下学年のお世話など、子どもたちが、自分でできることに取り組んでいます。

あ、もちろん、中学部の子どもたちもちゃんと活動しているので書き加えておきます。

決して強制されているわけではなく、主体的に活動していることに大きな意味があります。私たち教師や保護者には、そのきっかけを与えてあげたり、そっと見守ってあげたりする役割があります。

機会がありましたら、登校時間の学校の様子も見てください。子どもたちの輝く姿をご覧いただけたと思います。



大坪康弘さん

だれ？

そう思われる方も多いと思います。4月から本校に来てもらうことになったスクールカウンセラーです。

大坪さんは宮崎市で開業している臨床心理士で、定期的に来校されます。期日等の詳細は保健室から別途お知らせしていますのでそちらをご覧ください。

臨床心理士によるカウンセリングというと、心の悩みをもつ人や病んでいる人が受けるものというイメージがつきまとうため、慣れないと敷居が高いかもしれません。

スクールカウンセラーは、子育ての相談や子どもの行動についての相談など、気軽に相談できるようにと学校に配置されています。

そのことで、子どもや保護者の悩みを解決し、よりよい学校生活が送れることを目指しています。「お試し」でもかまいませんので、ぜひご活用ください。

参考までに

どうしても人目が気になるという方には、県教育研修センター内にある「ふれあいコール」（裏面参照）という電話相談や、延岡児童相談所の子育て相談などもあります。抱え込まないことが子どものためにもなると思います。

「ちょボラ」

「ちょっとボランティアしてみませんか？」

懐かしい響きですね。過去に公共広告機構が流したキャッチフレーズです。

道路にはみ出した自転車を並べる、ゴミ箱の周りに散らかったゴミを片付けるなど、通りがりに、気軽にできるボランティアを推奨していました。

日頃から実践されている保護者の皆様には「何だその程度のこと」という話題でしたね。失礼しました。

人の世に道はひとつということはない。
道は百も千も万ある。

坂本龍馬らしい言葉ですよ。

一般的な龍馬像と言えば、「新しい物好き」「行動派」「常識にとらわれない」「交渉上手」といったところでしょうか。

歴史に詳しい方、本通信に返信をください。

確かに、同じ職種に就いていても、仕事への取り組み方や、家庭とのバランスの取り方など、人の生き方は千差万別。

子どもたちには、自分らしい生き方を見つけてほしいと思います。学校は生き方を見つげるための場所でもと考えています。

ただ、学校だけでは限界があります。たまに親の生き方を語っていただくとありがたく思います。親の言葉って、子どもには響くものですよ。

